



The 61st Annual Meeting of the Japanese Society for Surgical Metabolism and Nutrition

# 日本外科代謝栄養学会第61回学術集会

2024

7/25 (木) 12:10 ~ 13:10

第1会場 (大阪国際会議場 10階 会議室1003)

## 消化器疾患の周術期管理に 必要な亜鉛の知識

座長

**吉川 貴己** 先生

国立がん研究センター中央病院 胃外科 科長

演者

**社本 智也** 先生

名古屋市立大学医学部附属西部医療センター  
消化器外科 副部長 / 講師

本セミナーは、整理券制ではありません。

共催

日本外科代謝栄養学会第61回学術集会

株式会社 シノテスト

# 消化器疾患の周術期管理に必要な亜鉛の知識

**社本 智也** 先生

名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 消化器外科 副部長 / 講師

鉄に次ぐ第二の微量元素である亜鉛は、ヒトの成長、代謝、免疫、生殖などへ多様に関与し、その欠乏は多彩な症状を引き起こす。近年では、消化器疾患の病態との関連も明らかとなっており、栄養指標であるアルブミンや周術期における CRP 値との相関が報告されるなど、栄養や侵襲に対するバイオマーカーの可能性も指摘されている。

## 1) 肝疾患と亜鉛

肝硬変患者では亜鉛欠乏症をしばしば合併し、亜鉛欠乏はアンモニアの代謝障害を引き起こす。肝性脳症患者に対する亜鉛補充が、ガイドラインでも推奨されている。

## 2) 膵疾患と亜鉛

膵周術期における亜鉛の補充が、感染性の合併症を低減する可能性が示された。膵外分泌機能不全と低亜鉛との関連も示唆され、長期にわたる亜鉛のモニターが有用と考えられる。

## 3) 化学療法と亜鉛

白金系の薬剤を含むレジメンに、味覚障害の発症が多いことが報告されている。化学療法によって血清亜鉛値は低下するが、亜鉛の適切な補充によってこれらの症状が改善するかは、今後の研究がまたれる課題である。

亜鉛欠乏症は多彩な病態を引き起こすが、適切な亜鉛補充によりこれらは改善するため、正しく迅速に測定し、血清亜鉛値を管理することが重要である。当院の亜鉛測定の現状とともに解説する。